

2019年12月期第3四半期決算説明会



東京モーターショー2019
YAMAHA MW-VISION

ヤマハ発動機株式会社
2019年11月13日
(証券コード:7272)

本日ご説明する内容

2019年12月期 第3四半期決算

■ 概要説明

■ 事業別説明

取締役 大川 達実

● 業績予想について

この説明資料内で述べられているヤマハ発動機株式会社の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、様々な要因の変化により大きく異なることがありえますことをご承知おき下さい。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動等が含まれます。

概要説明

2019年3Q累計 経営状況

売上高は前年並み。営業利益は為替影響・成長戦略費用を除き前年並み。
各事業の改善をさらに進め、年間営業利益1,250億円達成を目指す。

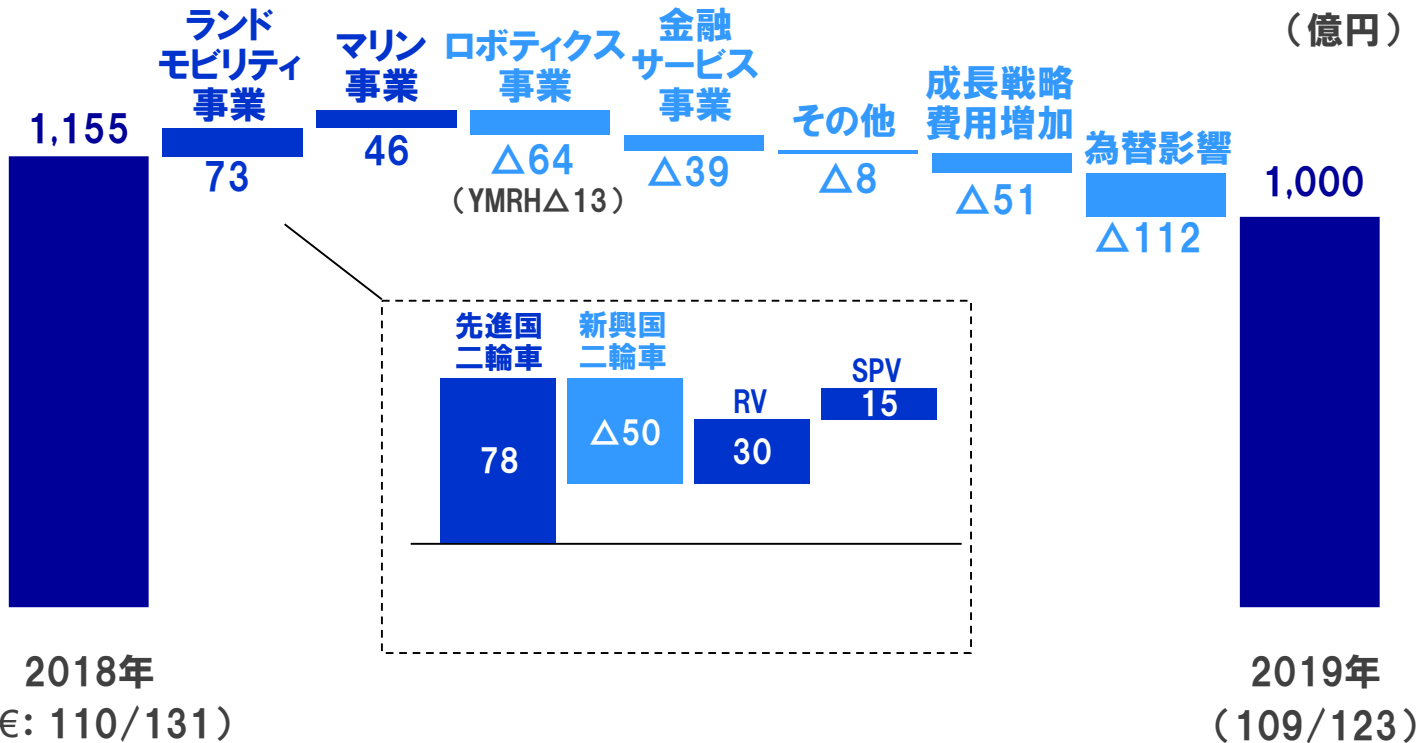
(億円)	2018年 3Q累計	2019年 3Q累計	前年比
売上高	12,620	12,672	100%
営業利益	1,155	1,000	87%
営業利益率	9.2%	7.9%	△1.3pts.
経常利益	1,134	1,024	90%
当期純利益※	818	756	92%

(\$・€)	110・131	109・123	—
(\$/IDR・BR\$)	14,213・3.6	13,889・3.8	—

※ 親会社株主に帰属する四半期純利益

2019年3Q累計 営業利益変動要因

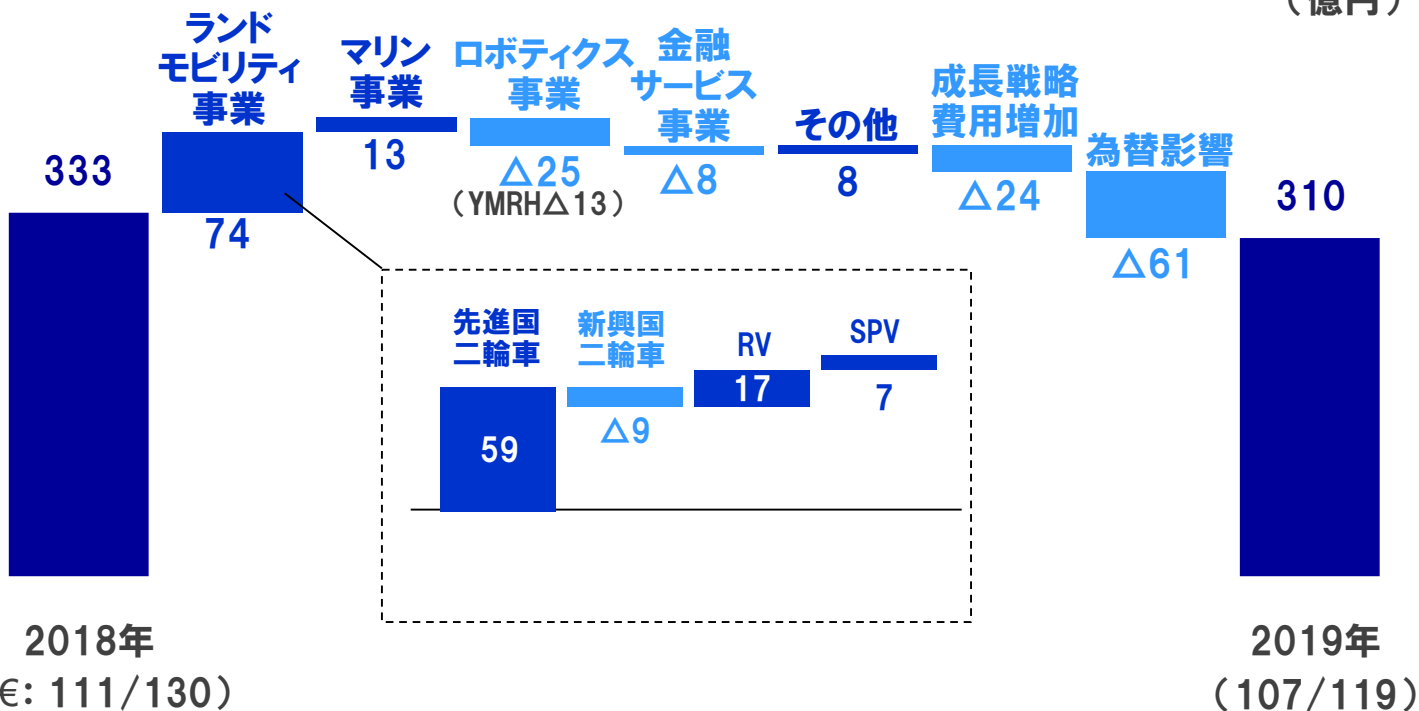
先進国二輪車の収益が改善。マリンは順調に増益。
為替や他の特殊要因を除き、全体でロボティクスの減益をカバー。



2019年3Q(7~9月) 営業利益変動要因

為替影響を除けば、先進国事業の改善が成長戦略費用増加も吸収し、実質増益。

(億円)



中長期施策 ART for Human Possibilities 活動報告

電動二輪車「E01」(125cc相当)
を東京モーターショーにて発表



ソニーと共同開発 エンターテインメント
車両「SC-1」 サービス開始



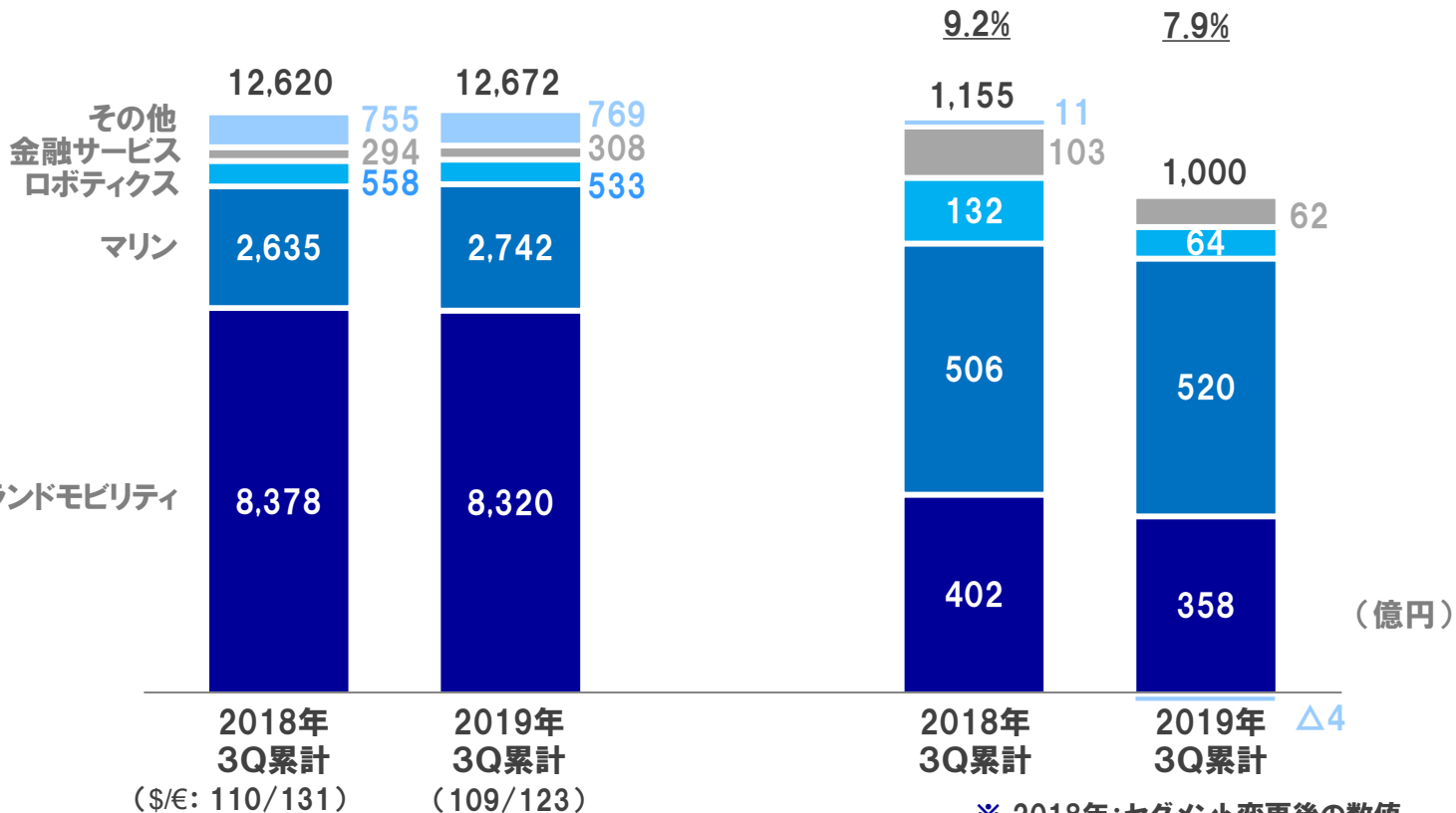
CASE	自動運転	ソニーと共同開発 エンターテインメント車両「SC-1」 サービス開始（沖縄）
	EV	「E01」(125cc相当) 「E02」(50cc相当) を東京モーターショーにて発表
その他	LMW	「YAMAHA MW VISION」 を東京モーターショーにて発表
	農業	「Land Link Concept」 を東京モーターショーにて発表

事業別説明

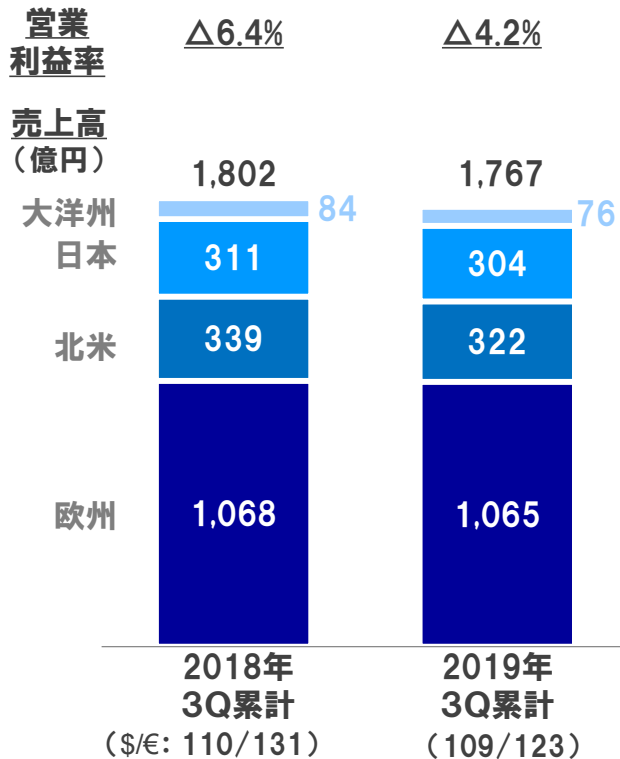
3Q累計事業状況

売上高

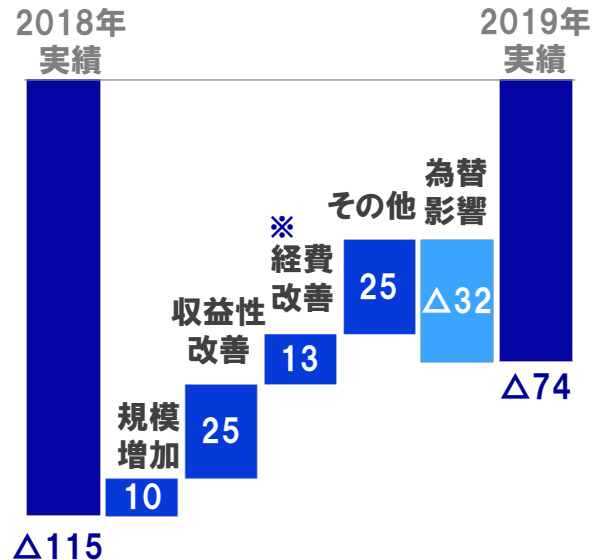
営業利益



欧州は為替影響ある中、販売増加。新規制対応モデルの生産・販売進む。工場稼働率の上昇も寄与し、赤字幅が縮小。

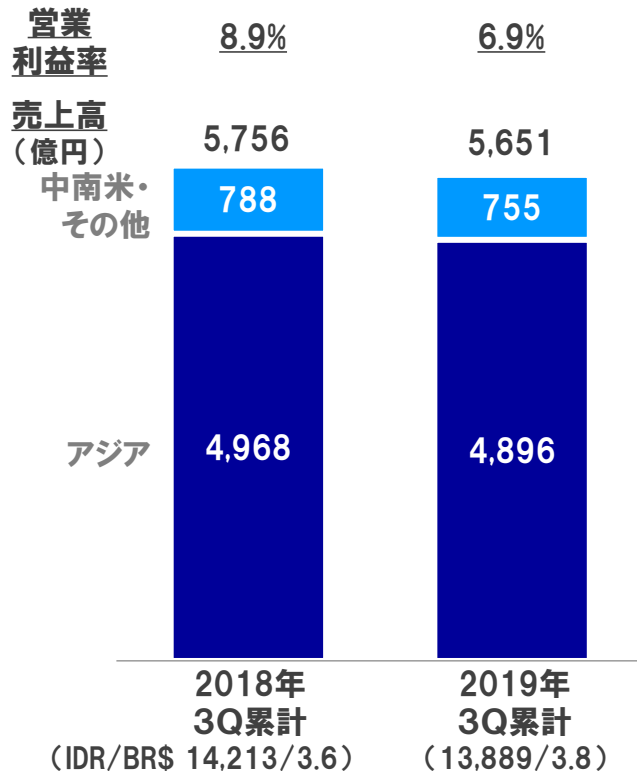


3Q累計 利益改善内訳

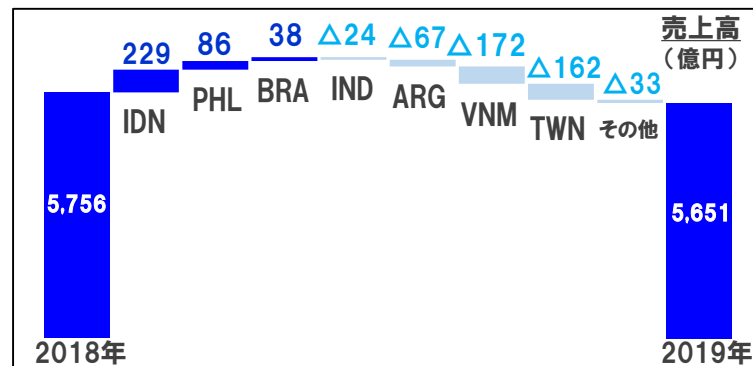


※ 成長戦略費用の増加▲5を含む。

インドネシアでは引き続き高価格商品の販売が増加。
ベトナム・台湾などの販売減少続くが、販売促進を強化し規模の回復を図る。
インドは先行きを注視しながら、規制対応新モデルを投入し巻き返しを図る。

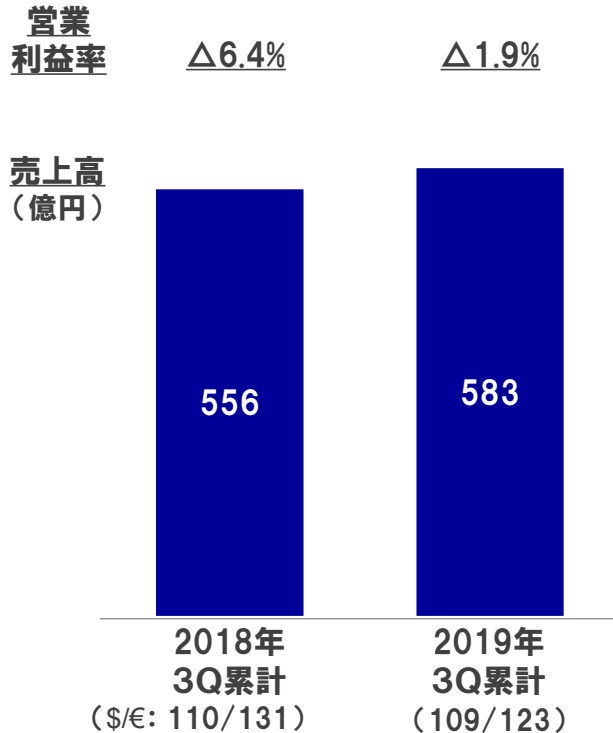


主要国 売上高 3Q累計変動



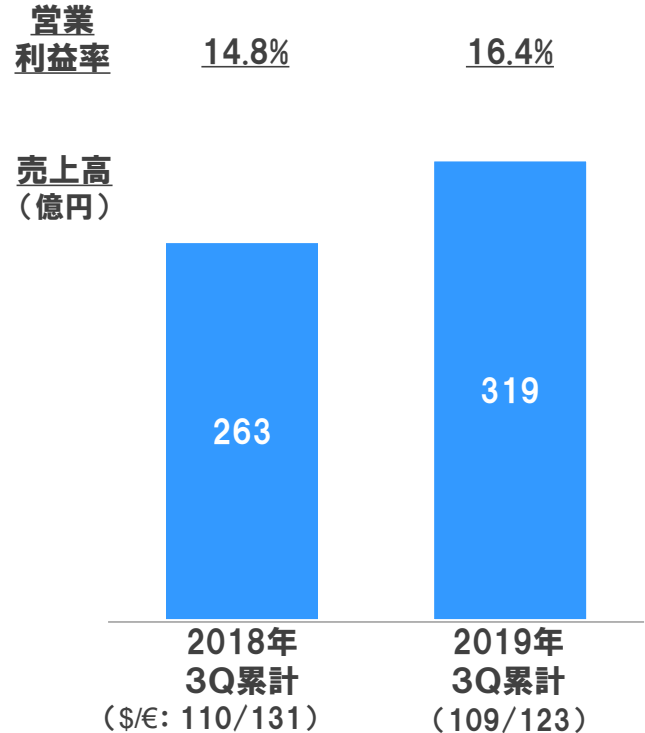
RV事業

ATVを中心に販売好調継続。
赤字幅が縮小。



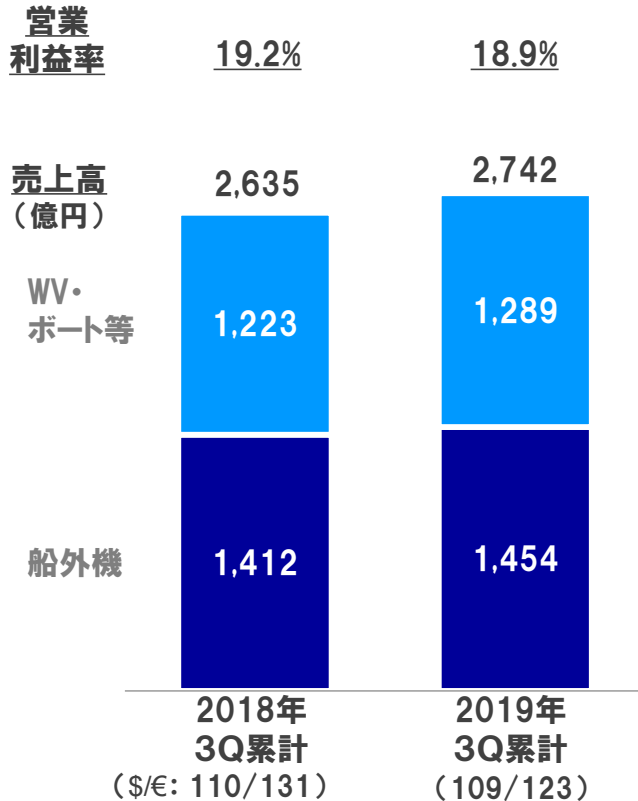
SPV事業

欧州向け輸出、国内完成車
ともに販売増加。

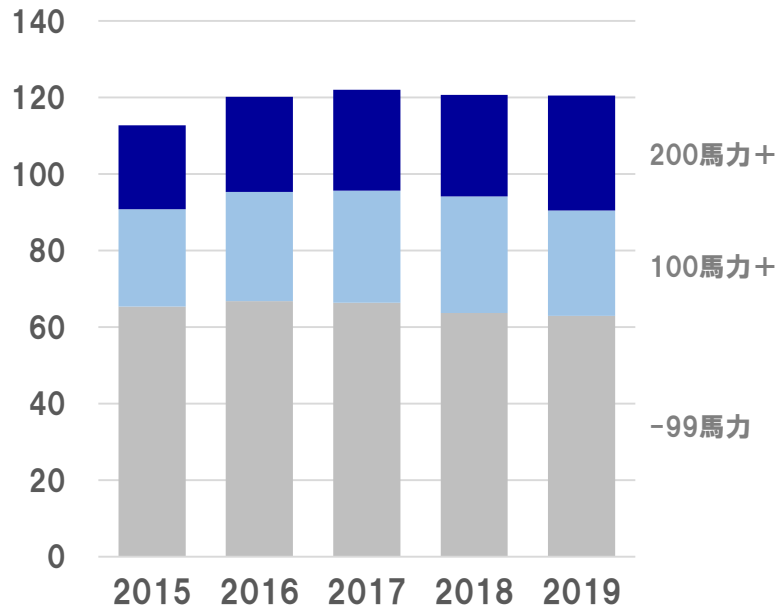


マリン事業

北米・欧州の大型船外機需要は依然強く、当社販売も堅調に推移。

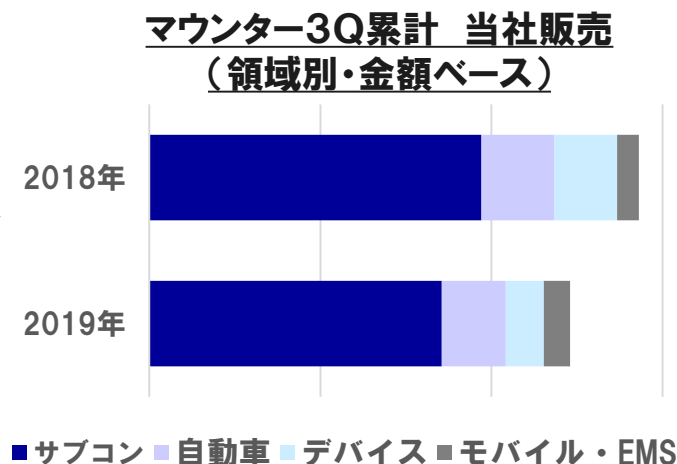
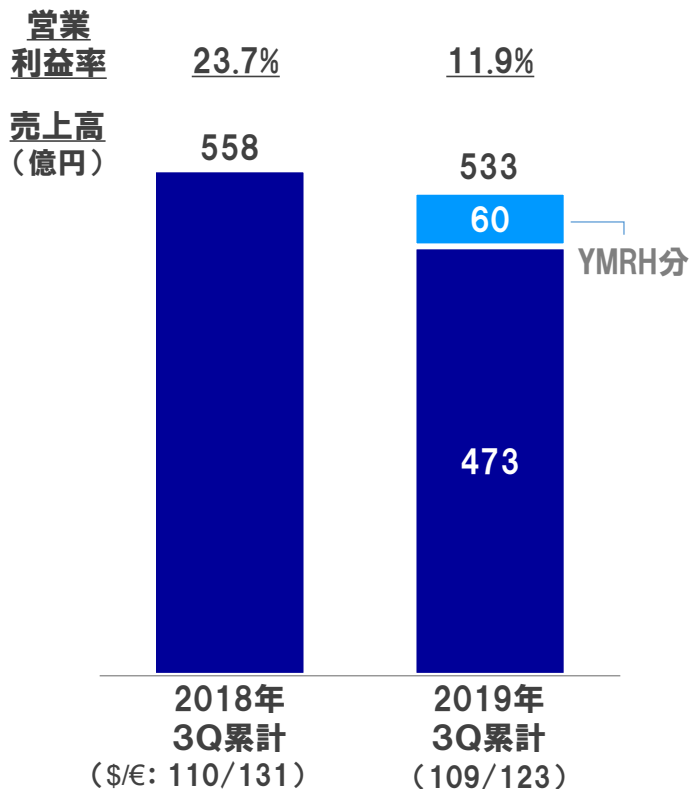


船外機 3Q累計販売状況 (北米・欧州市場: 千台)



ロボティクス事業

トータルラインソリューションを軸に、回復の兆しが見える領域で提案を強化。
YMRHの構造改革は予定通り進捗中。

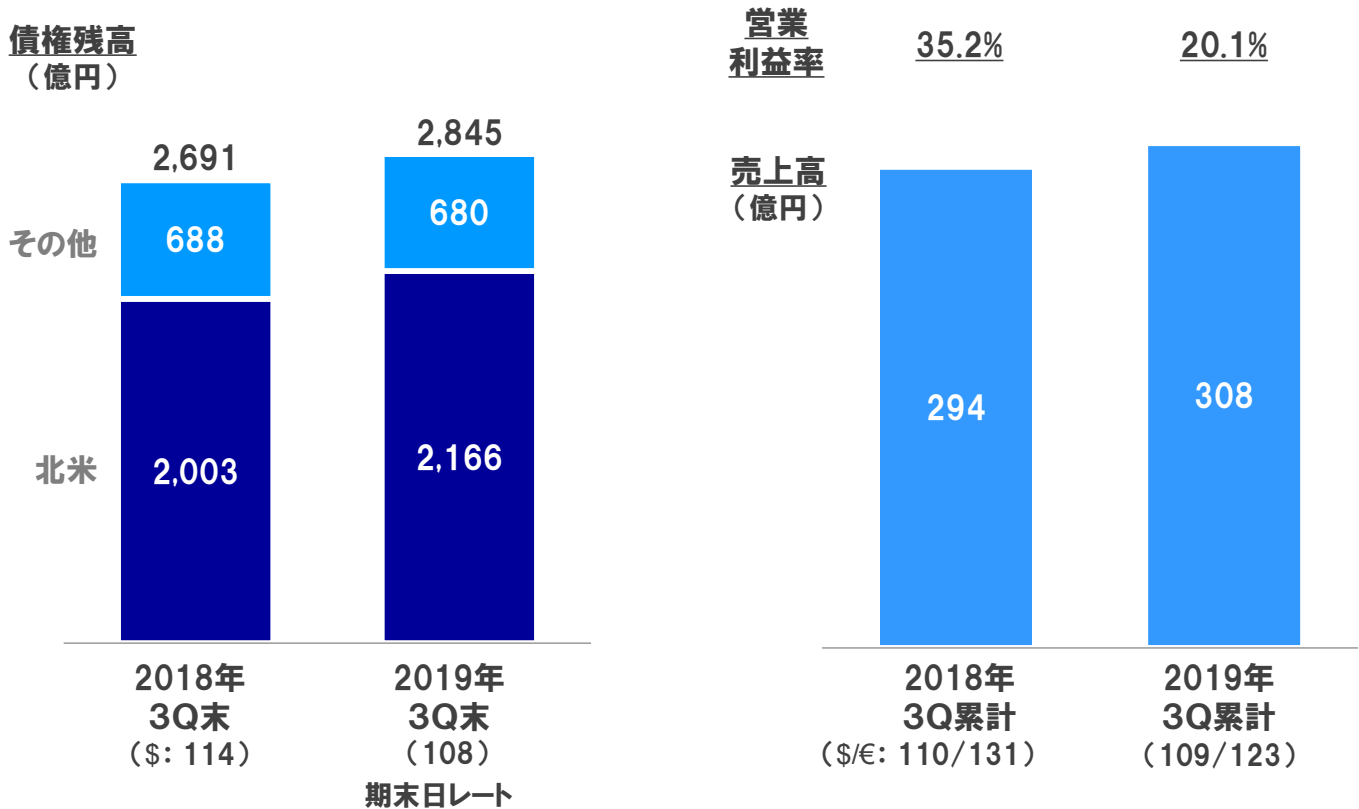


YMRH 2019年 7~9月 実績

売上高 60億円
営業利益 △13億円

金融サービス事業

債権残高は順調に伸張。一過性の影響を除けば堅調に推移。
欧州でのビジネス展開の準備が整い、来年から事業活動を本格化。





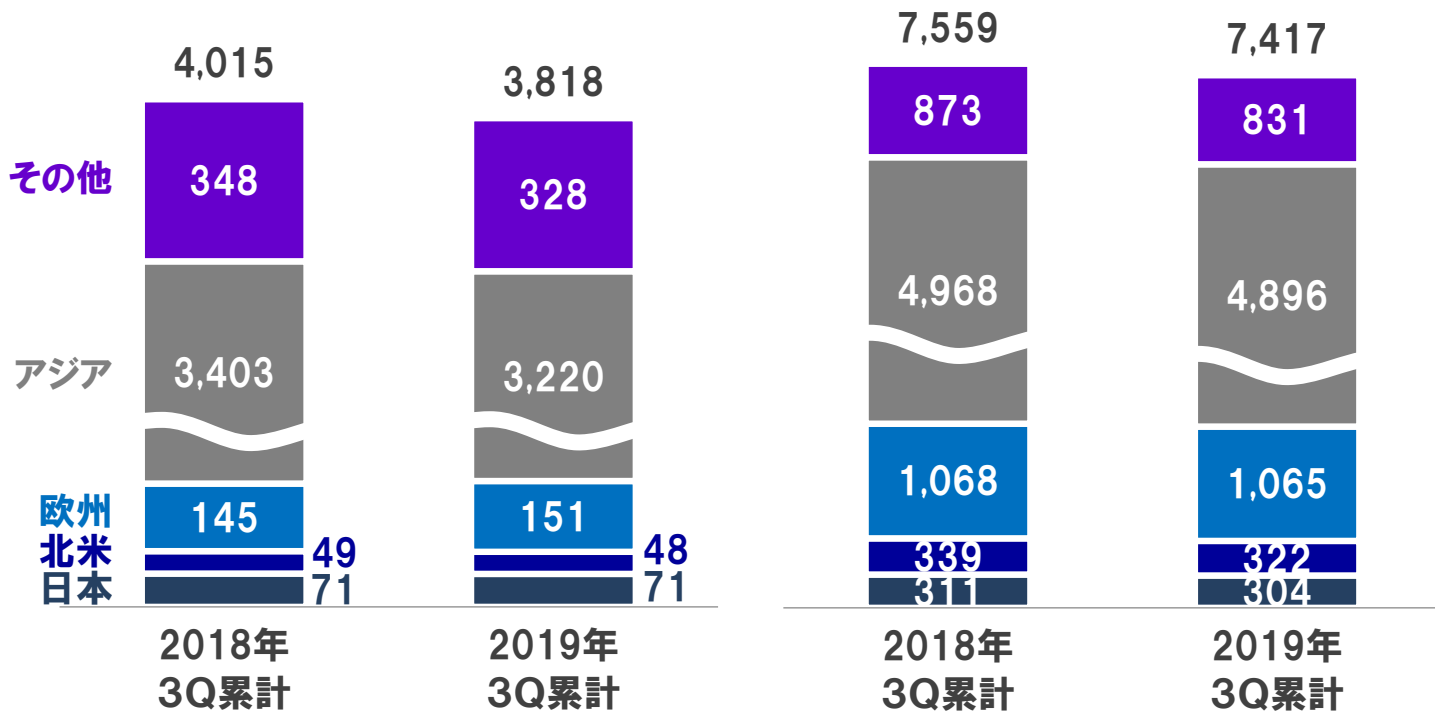
YAMAHA

Revs Your Heart

二輪車販売台数・売上高（3Q累計）

出荷台数
(千台)

売上高
(億円)



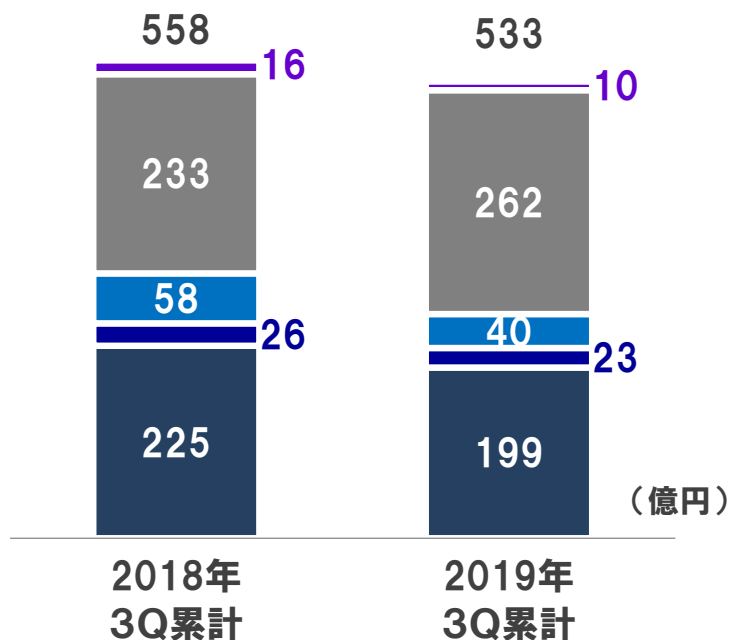
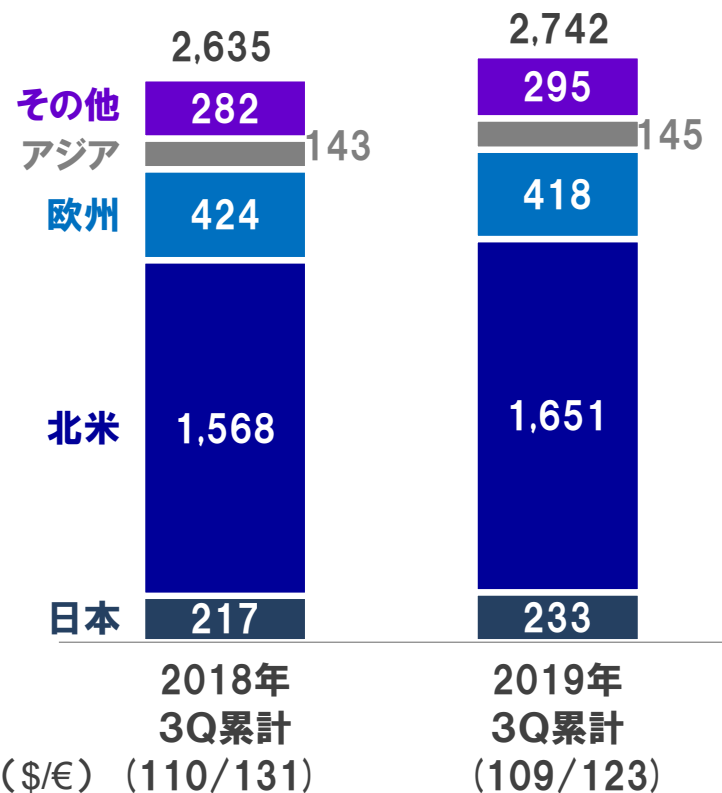
(\$/€) (110/131)

(109/123)

マリン、ロボティクス 売上高（3Q累計）

マリン

ロボティクス



設備投資・減価償却費・研究開発費・有利子負債

(億円)

	18年 3Q累計	19年 3Q累計
設備投資	270	317
減価償却費	344	370
成長戦略費用を含む 研究開発費	814	844
有利子負債	3,048	3,172

為替影響（対前年）

(億円)	3Q累計			
	US\$	EURO	その他	合計
本社の輸出入にかかる為替影響	△4	△34	△12	△53
為替による仕入影響（海外子会社）	0	0	△42	△42
粗利益の換算影響（海外子会社）	△2	△23	△41	△66
販管費の換算影響（海外子会社）	1	16	31	49
営業利益への為替影響	△5	△41	△64	△112

為替感応度

1円の変動が営業利益
に与える影響額

US\$	EURO
12億円	4億円



YAMAHA

Revs Your Heart